

# 八戸工業大学 同窓会報

## 会報発刊にあたっての ご挨拶

八戸工業大学同窓会会長 白川 直人



八戸工業大学同窓会会報発刊にあたり、一言挨拶を申し上げます。

本年、八戸工業大学が創立30周年を迎えるにあたり、昨年7月に連合同窓会組織を改組し全学同窓会として同窓生はもろろんのこと、大学院および学生を含めた学科にとらわれない組織として誕生いたしましたことを改めて報告いたします。



八戸工業大学同窓会会報発刊にあたり、一言挨拶を申し上げます。

この三陸はるか沖地震災害では同窓会員の皆さんから多大なる支援の申し出があり、また平成12年度の学生募集実績を憂慮した連合同窓会諸氏からは大学改革への様々な提言をいただきました。同窓会会員と大学教職員との心の交流がこうした形となって本学の危機を乗り越えてきた訳です。今、創立30周年と時を同じく、「八戸工業大学同窓会」として大同結集されたことは大きな喜びとするところであります。各学科同窓会の指導的立場の諸氏とともにこの結集に携わった一人として、一人の喜びとともにこれを発展させねばという責任を改めて感ずる次第です。

多様化する現代社会において、地域における大学の果たす役割は今後更に大きくなっていくものと思われまます。時代とともに、社会や学生のニーズにあつたものへ対応すべく学科も時代とともに改編されていくものと思われまます。そして、ハード・ソフト両面から地域に根ざした大学へ発展していかなければならないと考えまます。大学の評価は、諸先生方の研究成果が世のためになることには言うまでもありませんが、同窓生が、社会に貢献することもその一つと考えまます。大学院が完成された今日、リカレント教育、生涯学習として、私たち同窓生や地域の方が気軽に利用できるものでありたいものです。情報化時代ですので、どこからでもアクセスでき、学習出来る環境を構築していただきたいと思われまます。

この三陸はるか沖地震災害では同窓会員の皆さんから多大なる支援の申し出があり、また平成12年度の学生募集実績を憂慮した連合同窓会諸氏からは大学改革への様々な提言をいただきました。同窓会会員と大学教職員との心の交流がこうした形となって本学の危機を乗り越えてきた訳です。今、創立30周年と時を同じく、「八戸工業大学同窓会」として大同結集されたことは大きな喜びとするところであります。各学科同窓会の指導的立場の諸氏とともにこの結集に携わった一人として、一人の喜びとともにこれを発展させねばという責任を改めて感ずる次第です。さて、会員各位の母校への暖かい配慮と期待に応えられますよう、「学生中心の大学」という考えの下に、『個性溢れる大学』に発展させるべく意識改革と大学改革に教職員一丸となつて取り組んでおります。平成13年11月に環境建設工学科はTABEE(日本技術者教育認定機構)の試行審査で、一流と称される大学の苦戦を尻目に、その教育システム内容は国際レベルの高い評価を得ました。これは地道な教育改革の

創刊号  
3月・9月発行  
八戸工業大学  
同窓会本部事務局  
0178-25-8027

成果であり、質の高い大学へと発展し続けていく証左です。この他、本学がすでに各種の分野で高い社会的評価を受けていることは、昨年10月の同窓会結成記念講演で報告した通りです。技術の急速な進歩と高度化により、多くの会員が最新技術に関する再教育の必要性を痛感し、出さることなら母校の講座を在宅で受けられるようなシステムがほしいとの期待もあろうかと思われまます。この種の要望にも応えらるるよう、遠隔双向教育等の最新ITシステムを備え、地域社会も広く開放される地域情報メディアセンター(仮称)の建設を創立30周年記念事業として計画中です。そこには同窓会用の部屋、設備等も設け、在学生も参加する形で同窓会活動を一層活発に行いたいと考えまます。計画が纏まり次第、会員各位にお知らせし、『誇れる母校』実現の企画に特段のご理解とご支援

## 第一回 同窓会総会開催

去る10月20日(土)に八戸グランドホテルにおいて、第一回八戸工業大学同窓会総会が行われまました。昨年まで各学科同窓会とそれ以上に連合同窓会がありまましたが、この度、全同窓会を一本化し、八戸工業大学同窓会として新たにスタートしました。参加者は全学科で約240名でした。

総会は二部構成で行われまました。第一部の記念講演では、高橋燦吉学長が「本学の現状と輝ける未来の建設・創立20周年以降の歩みと今後の10年」と題して、18歳人口が

減り全国的に大学経営が苦しい中、大学・報道関係者間で囁かれている「なぜに八戸工業大学は元気なんだ?」との疑問に対し、これまで行ってきた諸活動を語り、発展する八戸工業大学の未来設計について講演しました。

第二部の懇親会は白川同窓会会長の挨拶に始まり、本学の吹奏楽部による演奏が行われる中、同窓生と教職員が懐かしさと互いの現在を語り合い、楽しい一時を過ごしました。また、会場内には創立時から現在までの本学の風景や退職された教職員の方々の顔写真が映し出される「映像で見える八戸工大の歴史コーナー」が設置され、皆それぞれの思い出にふけつておられました。

最後は、参加者全員による校歌の合唱で締めくくられました。参加された方々からは、「忘れていた校歌を再び歌ったことで、八戸工業大学の卒業生であること、そして同じ歌を歌える



## 創立30周年 シンボルマーク

### 八戸工業大学同窓会会則

#### 第1章 総 則

- 第1条 本会は八戸工業大学同窓会と称する。
  - 第2条 本会の本部事務局は、八戸工業大学内に置く。
- #### 第2章 目的及び事業
- 第3条 本会は会員相互の親睦を図り、あわせて母校の発展に貢献することを目的とする。
  - 第4条 本会は前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
    - 一 会員相互の連絡及び親睦を図ること
    - 二 会員名簿及び会報等の発行に関する事
    - 三 母校の発展を助けるために必要な事項
    - 四 その他必要と認められた事項

#### 第3章 会 員

- 第5条 本会は次の各号の会員をもって組織する。
  - 一 正会員 八戸工業大学学部卒業生及び他大学出身の大学院修了生
  - 二 準会員 八戸工業大学学部在学学生及び他大学出身の大学院在学学生
  - 三 特別会員 八戸工業大学の現、旧教職員並びに同窓会役員が認められた者

#### 第4章 役 員

- 第6条 本会には次の役員を置く。
  - 一 会長 1名
  - 二 副会長 2名
  - 三 理事 7名
  - 四 監事 2名
- 2 前条に掲げる役員の外に名誉会長を置く。
- 第7条 役員は次の通りとする。
  - 一 会長は本会を代表し会務を総理する。
  - 二 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその任務を代行する。
  - 三 理事は会長及び副会長を補佐し、会務を行なう。
  - 四 監事は本会の会務を監査する。

#### 第5章 会 議

- 第8条 役員は任期は次のとおりとする。
  - 一 理事は学科から推薦する候補者から代議員会において互選する。
  - 二 会長及び副会長は理事の中から理事会において選出する。
  - 三 監事は学科から推薦する候補者から代議員会において選出する。
  - 四 役員は任期は、3年とし再任は妨げない。補欠の役員は前任者の残任期間とする。役員は任期満了後でも、後任の役員が選任されるまでは、なお、その職を行う。
- 第9条 本会の会議は総会、代議員会及び理事会とする。
- 第10条 総会は年1回開催するものとする。
- 第11条 代議員会は年1回開催し開催の時期は6月とする。
  - 2 代議員会は、役員及び各学科が選出する5名の代議員をもって構成する。
  - 3 代議員は、役員との兼任は認めない。
  - 4 定期代議員会では、次の事項を審議する。

- 一 予算及び決算に関する事項
- 二 役員に関する事項
- 三 会則の改正に関する事項
- 四 その他本会の目的達成に関する事項
- 5 臨時代議員会は、理事会が認めるとき、または代議員の10名以上から議案を添えて要請があつたとき開催する。
- 6 代議員会は、会長が招集し3週間まえに議案、日時、場所を公表して開催するものとする。
- 7 代議員会をもって成立する。
- 8 議決は出席構成員の過半数の承認を得て可決するものとする。ただし、賛否同数のときは、議長の裁定による。

- 第12条 理事会は、会長、副会長及び理事をもって組織し、会長が招集する。
- 2 理事会は、構成員の3分の2以上の出席をもって成立し、議決は過半数の承認を得て決する。

#### 第6章 各学科事務局

- 第13条 本会には、本会との連絡調整のため各学科事務局を置く。

- 第14条 本会は、理事会の決議により、各学科事務局の運営資金を援助することができる。

#### 第7章 地区支部

- 第15条 本会には、地区の正会員の分布に応じて、代議員会の議を経て支部を置くことができる。

- 第16条 本会は、理事会の決議により、地区支部に運営資金を援助することができる。

#### 第8章 会 計

- 第17条 本会の運営は、会費、寄付金、及びその他の収入をあてる。
- 第18条 本会の会費は、正会員となるとき終身会費として20,000円を定められた期日までに納入しなければならない。
- 第19条 本会には次の帳簿を整備し、会員はこれを閲覧することができる。
  - 一 会計簿
  - 二 議事録

#### 第9章 雑 則

- 第20条 本会則の変更及び関連規約の制定及び改正は、代議員会において出席構成員の3分の2以上の同意を得なければならない。

#### 附 則

- 1. この会則は、平成13年7月14日より施行する。
- 2. この会則施行の日から、従前の「八戸工業大学連合同窓会会則」(平成4年9月12日施行)は廃止する。

附 則

- 1. この会則は、平成13年7月14日より施行する。
- 2. この会則施行の日から、従前の「八戸工業大学連合同窓会会則」(平成4年9月12日施行)は廃止する。

本学は今年で創立30周年を迎え、卒業生が一萬二千名を超えるに至りました。これを機に

## 八戸工業大学同窓会 会報第一号に寄せて

学長 高橋 燦吉

### 八戸工業大学同窓会役員および代議員名簿

#### 役員

名称	氏名	学科	卒業年月
会長	白川直人	建築工学科	昭和55年3月
副会長	館谷一美	機械工学科	昭和51年3月
理事	荒谷兼喜	機械工学科	昭和61年3月
同	千菅野義明	機械工学科	昭和55年3月
同	菅野憲悟	電気工学科	昭和51年3月
同	山崎嘉範	電気工学科	昭和51年3月
同	石藤千春	土木工学科	昭和55年3月
同	高橋和雄	土木工学科	昭和55年3月
同	滝沢勇明	建築工学科	昭和56年3月
同	高滝沢光之典	機械工学科	昭和61年3月
監事	馬場秀典	電気工学科	昭和55年3月
同	高橋秀典	土木工学科	昭和55年3月

#### 代議員

学科	氏名	卒業年月(卒業学科)
機械情報技術学科	小玉吉美	昭和51年3月(機械工学科)
同	小笠原寛	昭和52年3月(同)
同	和田論俊	昭和55年3月(同)
同	西村直樹	昭和55年3月(同)
電気電子工学科	左藤直信	昭和58年3月(電気工学科)
同	福梅津正和	昭和52年3月(同)
同	田代勝	昭和54年3月(同)
同	横谷一史	昭和51年3月(同)
環境建設工学科	家長口和寿	平成元年3月(土木工学科)
同	三浦宏之	昭和55年3月(同)
同	斉藤久雄	昭和57年3月(同)
同	葛巻道司	昭和60年3月(同)
同	中滝井美	平成7年3月(同)
建築工学科	大木正孝	昭和55年3月(建築工学科)
同	大木孝司	昭和55年3月(同)
同	大木修	昭和55年3月(同)
同	藤田修	昭和56年3月(同)
機械工学科	原倫和	昭和61年3月(機械工学科)
同	大官倫和	昭和62年3月(同)
同	沢田敏	昭和63年3月(同)
同	三浦安	平成2年3月(同)
同	三浦安	平成4年3月(同)

上記のとおり、平成13年7月14日開催の設立総会に於いて承認された



### 出席者全員で校歌の大熱唱!!

## 同窓生の「子女、弟妹の入学金減免

仲間が社会に大勢おり、皆それぞれの場で活躍していることをあらためて感じた。」との声が聞かれました。

また、同窓会当日(20・土)と翌日(21・日)は学園祭が開催されており、家族連れで大学に來られた方も多いようでした。

新しくスタートした八戸工業大学同窓会は、今後も同窓生の社会活動を全面的に支援する態勢をとって行きます。同窓会活動に対する皆様方の御参加と社会活動を行う上での同窓会と八戸工業大学の活用を心からお待ちしております。

○ 実施時期：平成14年度以降入学生

○ 対象：同窓生の「子女、弟妹」

○ 減免額：十七万五千円

(※既入学者は対象となりませんことをご了承ください。)

○ 減免額：十七万五千円

○ 実施時期：平成14年度以降入学生

○ 対象：同窓生の「子女、弟妹」

○ 減免額：十七万五千円

## 平成13年度から2学科の名称を変更

### 機械工学科 ↓ 機械情報技術学科

本学科は、昭和47年八戸工業大学開設と同時に設置され、機械工学を基盤とする科目を主体に時代に先んじたカリキュラムを編成し、調和の取れた人材育成をめざし教育研究に努めて

参りました。

近年、コンピュータ技術のめざましい発展により、本学科でもこれまでの「製造」や「自動化」の技術に、CAD (Computer Aided Design) や CAE (Computer Aided Engineering) が、大きな役割を占めるようになり、さらに現在は、制御およびデータ伝送プログラミング等の情報技術と融合した機械工学に移行しています。

このため、入学志願者や地域社会等に対して本学科の内容を適切に表示する必要性に迫られ、「機械情報技術学科」と名称を変更しました。

新学科名の下、ITで夢を描き、それを現実にする機械情報技術者の育成、即ち、プログラミングを含めたコンピュータ利用技術をマスターし、独創的な技術により新しい製品の開発、開発に取り組める技術者の養成を目指し、鋭意努めて参りたいと考えております。

### 土木工学科 ↓ 環境建設工学科

本学科は、北東北の社会基盤建設・整備及び人材育成という地域社会からの要請に応え昭和51年に開設されました。当初は、構造、水工、土質、計画、コンクリート、衛生、測量などの分野からなるカリキュラムを編成し教育研究を行ってまいりましたが、その後、時代の変化とともに、建設系(構造、地盤、材料)と環境系(水工、環境、計画)とに再編成、実質的なコース制のもとで教育効果を上げてきました。

## 生物環境化学工学科

### 平成14年度4月開設

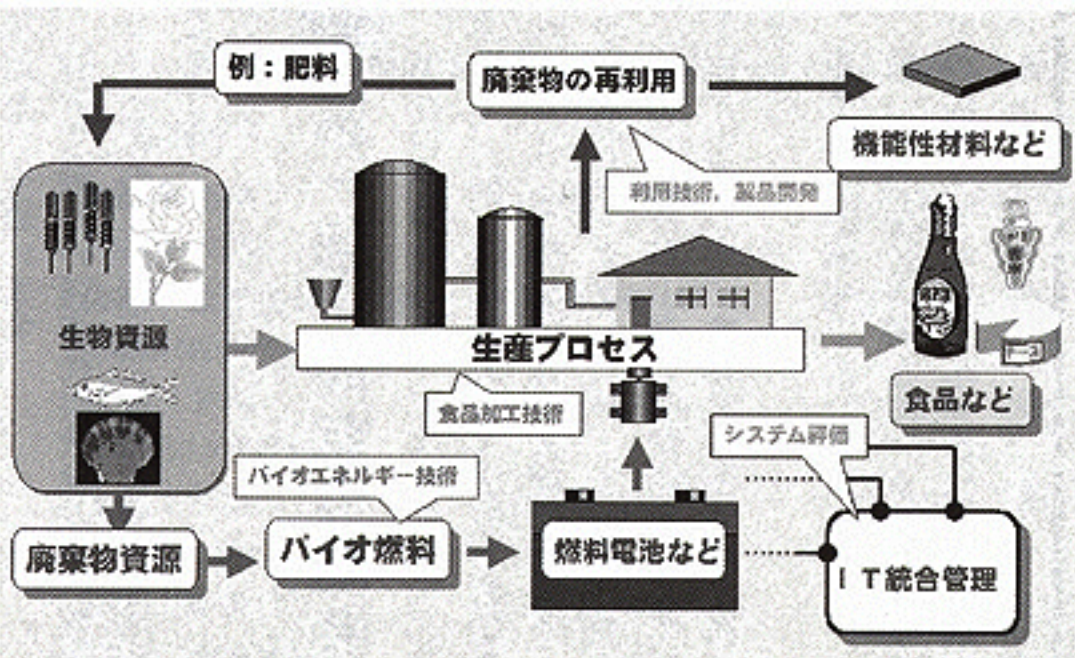
21世紀を迎えた今、技術の高度・多様・学際・情報化 (IT) を受けて土木工学を取り巻く社会情勢が大きく変化し、環境保全を強く意識した技術転換や地域社会密着型の技術開発・教育研究活動が求められ、土木工学に対する既成イメージを転換する必要性が生じています。

本学科は、既にこうした傾向に対応した内容で教育研究活動を行ってまいりましたが、社会情勢の変化は極めて大きく、これまでの学科名称では十分に対応できない状況となっております。

環境を保全・創造しつつ、ITを駆使して、社会基盤を建設・整備するという土木の本質をより明らかにし、これを本学志願者・地域社会に正確に理解していただくために、今回「環境建設工学科」に名称変更したものです。

文部科学省に「生物環境化学工学科」の設置認可の申請を5月末に行い、8月1日付けで認可されました。定員は60名で、平成14年4月から開設されます。

現在、地球規模での環境問題が大きな課題であり、環境に調和した循環型社会への変革が強く望まれています。地球温暖化やシックハウス症候群などはその例です。このような状況の中で、新学科は生物学的な要素を取り込んでエネルギー工学科を発展的に改組するものです。



## 学生実験のためのゼロエミッション化ミニ生産工場

環境建設工学科では JABEE (日本技術者教育認定機構) の試行審査を受審しました。10月の自己点検書提出に続き、去る11月12日・13日の両日、審査員5名による最終的な実地審査が行われ、審査員より「点検書もよくまとまっております。総じて評価は高い印象である」と判定されました。

審査は、自己点検書と関連資料に基づき、教育プログラム関係者(代表教員)面談、教員面談、学生・卒業生面談、教育関連施設・設備

## 環境建設工学科 JABEE 試行審査

### ○国際水準の証明

『生物環境化学工学科』は、社会に向って常に発信し、同時に市民に開かれた、親しまれる学科を目指しています。

循環型社会を構築するには、単に自治体の掛け声や産業界の努力だけではきわめて難しい面があります。市民の積極的な参加が不可欠です。そのため、公開講座やオープンキャンパスを積極的に開催して、ミニ実験工場での「ものづくり」の楽しさを味わったり、廃棄物を出さないシステムを実験してもらいます。

新学科は、21世紀の環境に調和した循環型社会を切り拓くエンジニアの育成を目指します。専門課程は、『生物・食品』、『環境・化学』、『生産プロセス』の三分野からなり、食品生産などのミニ実験工場を設けて、体験型学習を大幅に取り入れました。

青森県の主要な産業である農林水産業と工業分野を取り込んで、地域に密着した教育と研究を行います。生物資源を利用した食品などの高品質化と廃棄物利用によるバイオエネルギーの製造や医薬品などの高機能化などの研究、並びに製品開発を進めます。現在、自治体や産業界とも緊密に連携を取って、産官学による共同研究を幅広く行っています。

これらの研究成果を基にして環境産業などのベンチャービジネスに乗り出し、また本学科から有為な人材を社会に送り出して、地域産業の振興と活性化を図って行きます。本学科は学際的な学科であるため、取得できる資格は多岐に渡っており、また、就職先は農林水産業や製造業などの分野をはじめとして、外食産業や情報産業などのサービス産業まで幅広くあり、選択の幅が大きく広がります。

新学科は、21世紀の環境に調和した循環型社会を切り拓くエンジニアの育成を目指します。専門課程は、『生物・食品』、『環境・化学』、『生産プロセス』の三分野からなり、食品生産などのミニ実験工場を設けて、体験型学習を大幅に取り入れました。

### 30周年を迎える八工大

東奥日報「社説」(平成13年12月9日)より  
 本県最大の工業系研究教育機関である八戸工業大学がはつらつとしている。本紙に昨年環境建設工学科(旧土木工学科)、引き続き今年は機械情報技術学科の研究状況をそれぞれ20数回にわたり連載したが、内容の多彩さに驚く。そして県内のほぼ全域にわたり自治体あるいは各団体といっしょに、幅広く作業を進めていることに気付かされる。

文字通り「産学官」の連携を日々実践していることになる。大競争の時代にあつて世界が技術開発にしのぎを削る中で、本県に根付きつつ、新たな成果を生み出すことだろう。同大学は2002年4月の、節目となる開学30周年に向け走り続けている。

研究状況を機械情報技術学科の連載のまとめからピックアップすると、産業界が求める大画面液晶パネルについては、文部科学省・地域結集型共同事業として事業採択され、今後5年間で総事業費約35億円の巨費が投入されるプロジェクトになる。

同事業は県が策定し同大学が中心となって実施する「大型フラットパネルディスプレイの創出」であり、弘前大学、八戸工業高等専門学校のほか、多数の地元企業が連携する。研究では最先端の超微細のナノテクノロジー(NT)を駆使。本県が世界的液晶産業の中心となる可能性も秘める。近い将来、IT(情報技術)からNTが中核産業となるとの見通しもあるという。

また、機会情報技術学科の研究テーマだけでも、「冷暖房・融雪」「噴霧・人工キャビア」「バイオ・細胞増殖」「原発炉材」「超微細孔・精密加工」など多彩だ。そして、研究状況の地域的広がり、地元八戸市はもとより三沢市、六ヶ所村、東通村、大間町、青森市、さらに津軽地方、西海岸へと

ほぼ県内全域にわたる。提携先も八戸市や科学技術振興事業団、21あおもり産業総合支援センターなどとなっている。大学全体の関係先では、青森テクノポリス開発機構、青森地域社会研究所、八戸インテリジェントプラザなどの県内機関のほか、県外、国の機関とも結んでいる。

こうした地域と密着しながら研究活動を進める同大学の取り組みについて、高橋燦吉学長は工業大学創設の際の基本理念とする。この上で、例えばバブル経済崩壊後の経済不況や、18歳人口の減少という厳しい現況をとらえて、「地域に評価され、貢献しなければ存在できない」とし、地域とみに歩む姿勢を強める。また、急ぎ成果を求める企業側と、学問に比重を置く大学側との連携のありようについては、「深い溝がある」としつつも、相互に乗り越えながら前進していくべきと断言する。何より高橋学長自身が民間大手企業で発電を手掛けてきた技術者でもある。巣立つ学生の就職率も100%近い実績を挙げている。

同大学の系譜は、45年前となる。1956年4月開学の八戸高等電波学校に始まる。八戸港から出漁する漁船に備える無線の通信士養成が主眼だった。すなわち時代と社会の要請に基づいて「海が育てた学園」(柳谷弟吉氏著=学校法人八戸工業大学前理事長)である。さらに72年4月に大学開学、95年4月大学院設置と、私財も投じて整備拡充されてきた。

八電波開学当初からの実学重視が八工大に引き継がれている。そして一連の学園整備には学校関係者はもとより、地元関係者らの多大な尽力があった。まさに地域が育てた私学でもある。八電波の150人の小さな学校が、幼稚園から大学まで6千人の学園に成長し、今は地域に広く貢献する学園ともなっている。来春の大学節目の年は、新たな創造と挑戦の年であってほしい。元気な大学が元気な青森県づくりともなるように。

### 八戸大学と単位互換実施

来年度からは全国で正式審査が始まります。当学科では、今後とも教育プログラムの改善に努め、早い機会に正式な審査を受ける予定です。

学生の学習機会の多様化要望に応えるために、昨年10月19日、八戸大学との間で単位互換協定が、両大学長によって締結され本年4月から実施されます。協定を結ぶにあたっては、両大学の学生により良い教育環境の提供と、地域社会に貢献することを目的に、約2年間の準備期間を設け、単位互換の目的、対象教科、単位の認定方法、実施方法など細部について検討を重ねてきました。

単位互換とは、文字通り双方の大学で開講されている授業を、それぞれの所属大学の単位として認定する制度です。これまで、八戸工業大学を卒業するためには124単位以上を取得する必要があったのですが、一部を八戸大学で取得することができるようになります。本学は、工学部の大学、八戸大学は商学部の大学であるため、開講されている授業科目が互いに大きく異なっています。それだけにこの単位互換制度を活用すると、より幅広い教育を受ける機会が増えることにつながります。

実際に、授業を受けるためには、所属大学での手続きが必要ですが、特別な授業を除き授業を受けるための追加の授業料を支払う必要はありません。受講できる学生は、大学にある程度慣れてきてから受講してもらう必要があるため、2年生以上となっています。対象科目は、約10科目。互いの大学で取得した単位は、進級要件や卒業要件の中にも含まれる単位として認定されます。

### 快適な学生生活のための環境づくり

来年度からは全国で正式審査が始まります。当学科では、今後とも教育プログラムの改善に努め、早い機会に正式な審査を受ける予定です。

本学では、学生生活をより快適に過ごせるように、学内の環境整備を計画的に進めております。また、学生からの改善要望は、学生課が窓口となって、学生たちの要望にできるだけ応えらるるよう努めています。

今年度の環境整備改革の一環で、次の施設設備の改善をはかりました。①夜間練習のための野球場照明設備の新設、②階段の抗菌手すりの全館設置、③女子学生の多い建築工学科と環境建設工学科の女子トイレのイメージを一新して化粧室として改修、④学生団らんスペースとなつて



学生ホールの風景

視察調査などが行われました。これにより、JABEET基準1~6の学習・教育目標、学習・教育の量、教育手段、教育環境、目標達成度の評価と証明、および教育改善について、学科の教育プログラム全体が基準を満たしているか詳細に審査されました。

今回は試行審査のために具体的な評価点は下されませんが、審査長より「いわゆる『D(不合格)』はひとつもない」との審査通知を口頭で受け、実質的には「合格」という審査結果となりました。JABEET基準を満たすことは、学科の教育プログラム国際水準を満たすことの証明にもつながるものです。

### ○JABEETとは

認定の目的は、(1)認定基準を満たしている教育プログラムの公表すること、認定されたプログラムの修了生が、将来技術者等につくために必要な教育を受けていることを社会に知らせる。(2)技術者教育の質の継続的改善向上を図り、優れた教育方法の導入を促進して技術者教育を発展させる。(3)技術者教育の評価方法を発展させると共に、技術者教育の評価方法を発展させる。育成する。(4)教育活動に対する組織の責任と教員個人の役割を明確にすると共に、教員の教育に対する貢献の評価を推進することです。

土木系大学では平成12年度に試行審査が始

視察調査などが行われました。これにより、JABEET基準1~6の学習・教育目標、学習・教育の量、教育手段、教育環境、目標達成度の評価と証明、および教育改善について、学科の教育プログラム全体が基準を満たしているか詳細に審査されました。

今回は試行審査のために具体的な評価点は下されませんが、審査長より「いわゆる『D(不合格)』はひとつもない」との審査通知を口頭で受け、実質的には「合格」という審査結果となりました。JABEET基準を満たすことは、学科の教育プログラム国際水準を満たすことの証明にもつながるものです。

### ○学科の取り組み

平成12年度から学科内に「教育プログラム改善委員会」と「自己点検チーム」を設置し、学科のキャリアラム全体、各教員のシラバス(講義要目)・授業内容・成績評価方法、さらには教育研究施設の充実など、あらゆる項目について点検改善を行ってきました。また、今年度からは大学全体の自己点検・評価活動と連動しながら準備を進め、今回、実質的な合格判定と見える大成果を達成しました。今回の受審は、土木系学科では北海道・東北地方で初であり、正に快挙であると言えます。

相互に協力して、地域の高等教育機関としての役割を果たすことが、益々重要になってきています。本学では、今後多くの学生がこのような機会を活用して幅広い教育を受けられるよう支

郵便はがき

料金受取人 八戸局承認

031-8790

442

16

八戸市大字妙字大開八八一

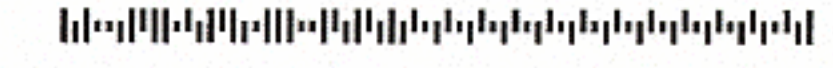
八戸工業大学

同窓会 行

差出有効期間 平成15年2月28日まで

※有効期間内は切手を貼らずに投函して下さい。

有効期間は50円切手を貼って下さい。



### 「大学ランキング」で本学が高い評価

「2002年大学ランキング」(朝日新聞社発行)で、本学の教育研究活動がランキング入りし、高い評価を受けました。特に、高校からの評価で高い評価を受けています。全国の大学682校の中で、「総合評価76位」、「生徒に薦めたい大学71位」、「進学して伸びた大学45位」となっています。本学のきめ細かな教育が評価されたものと思われま

総合評価	生徒に薦めたい大学	進学して伸びた大学
1 慶応義塾大	1 京都大	1 慶応義塾大
2 東北大	2 慶応義塾大	1 東北大
3 京都大	3 東北大	3 京都大
4 立命館大	4 東京大	4 東京大
5 筑波大	5 国際基督教大	5 筑波大
6 東京大	5 早稲田大	6 大阪大
7 大阪大	7 大阪大	7 東京理科大
8 国際基督教大	8 筑波大	8 国際基督教大
9 北海道大	9 一橋大	9 東京工業大
10 名古屋大	10 東京工業大	10 一橋大
11 中央大	11 北海道大	11 名古屋大
12 同志社大	12 東京理科大	12 早稲田大
13 九州大	13 上智大	13 北海道大
14 東京理科大	14 名古屋大	14 九州大
15 早稲田大	15 立命館大	15 上智大
76 八戸工業大	71 八戸工業大	45 八戸工業大

### マンツーマンの就職支援体制

今年の就職戦線は一段と激しいものとなっています。春から夏にかけては昨年よりもやや良い状況でしたが、秋口になって求人伸びがなくなっています。特にIT関連の製造業が採用を控える傾向にあります。こうした中で、本学の就職内定率は、11月末の段階で70%近くにまで漕ぎ着けました。ただし、昨年のペースを少し下回っています。現在、就職指導の先生に卒業指導の先生も加わって、マンツーマンの支援体制により就職内定率100%をめざしているところと見られます。来年の就職戦線、つまり現在3年生の就職活動も10月から始動しています。



同窓生が勤める会社による就職懇談会

また、本学OB・OGを招いての就職講演会や就職ガイダンスを開催するなど、就職に対する意識を高めるためきめ細かい指導を実施しています。すでに就職模範試験も3回実施し、その相談ができるような体制を整えました。また、本学のような工業系の大学であっても就職活

動は激しい時代となりました。しかし学生だけに就職活動を任せっきりにほしくないところが、他の大学にない本学の特徴でもあります。必ずや卒業生全員が晴れやかな春を迎えられることとなるでしょう。

### 平成13年度体育会 戦績

- レスリング部
  - 東北地区大学レスリング選手権 優勝者6名
  - 東日本学生秋季新人戦・個人戦 優勝者1名
  - アイスホッケー部
    - 東北地区大学選手権・準優勝 全国大会出場
  - ボクシング部
    - 東北シニアトーナメント大会・優勝者2名
    - 東北地区大学秋季大会・優勝者1名
  - サンボ部
    - 青森県サンボ選手権・優勝者2名
    - フィギュアスケート
      - 東日本ジュニア選手権・優勝者1名
      - 全日本ジュニア選手権・優勝者1名
    - 少林寺拳法部
      - 東北少林寺拳法大会・優良賞2名

### 証明書の発行について

本学を卒業され、社会の一員として国内外で活躍されていることと思います。今後、各種免許・資格を取得する機会があると思いますが、その際に必要となる証明書の申し込みは、次の要領で教務課まで郵送して下さい。また、電話・FAX等での申し込みは間違いが生じやすいため、受付けておりません。なお、発行までに3日、英文の場合一週間かかりますのでお早めにお申し込み下さい。

○申込用紙
 申込用紙として、レポート用紙・便箋等に次の項目を記入して下さい。学籍番号、氏名、生年月日、卒業年月、卒業学科(英文証明書申請の場合はローマ字表記の氏名も記入) 証明書の種類と枚数使用目的、住所、電話番号(会社等確実に連絡の取れる所)

※指定の用紙(電気工事士筆記免除用紙等)がある場合は同封して下さい。
 ○返信用封筒
 封筒は「長3」120×235mmに、住所・氏名を明記し、切手を貼ってください。証明書枚数が、2枚以下は80円、3〜5枚は90円、6枚は120円切手貼付。6枚以上の際は、教務課までお問い合わせ下さい。速達希望の場合には更に270円加算されます。
 ○発行手数料
 発行手数料の合計金額分を郵便局で発行する「郵便定額小為替」に代えて同封して下さい。発行手数料は各証明書1枚につき200円(英文の場合1000円)となります。
 ○宛先および問い合わせ先
 〒031-8501 八戸工業大学 教務課
 TEL 0178-25-8025(直通)

### 同窓会事務局の連絡先(各種連絡先としてご利用ください)

事務局名	TEL	E-mail
本部事務局 (学生部学生課)	0178-25-8027	dosokai@hi-tech.ac.jp
機械・産業機械工学科 (機械情報技術学科事務室)	0178-25-8010	dosokai-m@hi-tech.ac.jp
電気工学科 (電気電子工学科事務室)	0178-25-8020	dosokai-e@hi-tech.ac.jp
土木工学科 (シビル会事務局)	0178-25-8058	dosokai-c@hi-tech.ac.jp
建築工学科 (建築工学科事務室)	0178-25-8040	dosokai-a@hi-tech.ac.jp
エネルギー工学科 (エネルギー工学科事務室)	0178-25-8050	dosokai-p@hi-tech.ac.jp

### 会員状況(異動)届

氏名 (旧姓) \_\_\_\_\_  
 E-mail  \_\_\_\_\_  
 学 科 \_\_\_\_\_  
 卒 業 昭和・平成 年 月 \_\_\_\_\_  
 現住所 〒 \_\_\_\_\_  
  Tel  Fax  
 勤務先 \_\_\_\_\_  
 役職名 \_\_\_\_\_  
 勤務先 〒 \_\_\_\_\_  
 住所  \_\_\_\_\_  
 Tel  Fax  
 通信欄 \_\_\_\_\_

### 同窓会半期(4、10月)行事予定

- 4月6日(土)・・・入学式
- 5月2日(木)・・・開学記念日
- 5月18日(土)
  - 仙台支部 同窓生の集う会
  - 時間：午後5時30分から
  - 場所：五橋会館(青葉区五橋一丁目5-3)

新社会人の方は、是非にご参加を!!  
先輩方がいろいろな相談を聞き、アドバイスをしてくれます。人や会社間のネットワークを作るのに最適な場。充実した仕事、社会生活をするために同窓生の環を広げましょう。

- 5月18日(土)・19日(日)
  - 工大グループフェア・会場 ラビア
- 6月21日(金)
  - 30周年記念事業オープニングコンサート
  - ト・八戸市公会堂
- 7月5日(金)
  - 開学30周年記念式典・祝賀会
  - 八戸プラザホテルアーバンホール
- 10月19日(土)
  - 第二回 同窓会総会
  - 場所：八戸グランドホテル
  - 時間：午後6時から
- 10月19日(土)・20日(日) 学園祭

このはがきは、現住所等に変更があったときは必ずお送りください。名簿に記載を希望しないときは□内に×印をしてください。また、近況、お知り合いの会員の異動についても「通信欄」でお知らせください。